

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：三浦 真紀

| | | | |
|---|------------------------------------|--|--|
| 事業名 | 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道 (大栄～横芝) | 事業区分 | 一般国道 |
| 起終点 | 自：千葉県成田市吉岡 至：千葉県山武市松尾町谷津 | 事業主体 | 国土交通省 関東地方整備局 |
| 延長 | 18.5km | | |
| 事業概要 | | | |
| <p>首都圏中央連絡自動車道（圏央道）は、東京都心から半径およそ40～60kmの位置に計画されている延長約300kmの高規格幹線道路であり、首都圏の幹線道路の骨格となる3環状9放射の道路ネットワークを形成し、首都圏全体の道路交通円滑化や機能の再編成等を図る目的の事業である。</p> <p>大栄～横芝間は、現在事業中である圏央道（つくば～大栄）に接続し、千葉東金道路、東関東自動車道水戸線と連絡することとなり、千葉県と茨城県等とを結ぶ広域的な高速交通ネットワークを形成されるとともに、成田国際空港周辺における新たな自動車専用道路として、地域の活性化並びに地域間の交流及び連携の強化を図り、地域経済及び産業の発展に寄与するとともに、周辺交通混雑の緩和及び交通事故の軽減が図られ、安全かつ円滑な交通の確保に寄与する道路である。</p> | | | |
| H20年度事業化 | | H19年度都市計画決定 | |
| | | 用地 未着手 | |
| | | 工事 未着手 | |
| 全体事業費 | 約1,040億円 | 事業進捗率 | 3% |
| 計画交通量 | 17,200～20,700台/日 | | |
| 費用対効果分析結果 | B/C (事業全体) 1.6 (残事業) 1.6 | 総費用 (残事業)/(事業全体) 779/812億円 (事業費：675/708億円 維持管理費：104/104億円) | 総便益 (残事業)/(事業全体) 1,264/1,264億円 (走行時間短縮便益：1,046/1,046億円 走行費用減少便益：129/129億円 交通事故減少便益：89/89億円) |
| 感度分析の結果 | | 残事業について感度分析を実施 | |
| 交通量 | | B/C=1.5～1.7(交通量 ±10%) | |
| 事業費 | | B/C=1.5～1.8(事業費 ±10%) | |
| 事業期間 | | B/C=1.4～1.8(事業期間±20%) | |
| 事業の効果等 | | | |
| (1) 高速ネットワークの形成 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 圏央道千葉県区間は、東関東道と交差し東京湾アクアラインに連絡し、千葉県内の高速道路ネットワークを形成。沿線にある成田空港は、世界の空港における貨物取扱量第3位であり、成田空港の発着容量は今年から22万回/年に増え、将来は30万回/年に拡大する方針が決定。航空貨物需要が多い東京・横浜方面については、圏央道・アクアライン経由により貨物輸送の分散化・円滑化が図られ、国際競争力の強化も期待される。 | | | |
| (2) 交通混雑の緩和 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 当該地域は大規模な渋滞は少ないが、既存インターチェンジや市街地などで、渋滞箇所が見られ、国道409号、国道295号の一部で渋滞が激しい箇所が見られる。 圏央道（大栄～横芝）の整備により、圏央道周辺道路からの交通量の転換が図られる。 | | | |
| 関係する地方公共団体等の意見 | | | |
| 千葉県知事からの意見： | | | |
| <p>圏央道は、本県の地域経済の活性化、観光立県の推進などに寄与する極めて重要な道路であり、県では圏央道の効果を県内各地へ広く波及させるためアクセス道路の整備を積極的に推進している。また、成田空港と各都市との連携を強化するためにも早期完成が強く求められている。さらに、沿線地域では開通を悲願としているので、事業の継続は必要と考える。については、開通目標が唯一宣言されていない大栄～横芝間については、ミッシングリンクの解消のため、開通目標を設定し、早期完成を図りたい。</p> | | | |
| 事業評価監視委員会の意見 | | | |
| 事業の継続を承認する。 | | | |
| 事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 | | | |
| <p>成田国際空港のB滑走路北伸は平成21年10月22日より供用し、年間発着回数枠が2万便増加し22万便に。今後、年間30万回に拡大する方針が決定。これに伴い航空貨物量の増大も予想され、物流の効率化などが期待されている。</p> | | | |
| 事業の進捗状況、残事業の内容等 | | | |
| 平成20年1月に都市計画決定。平成20年度より測量調査に着手。事業推進に向け、関係機関との協議調整しつつ設計を推進。 | | | |
| 事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 | | | |
| 事業推進に向け、関係機関との協議調整しつつ設計を進める。 | | | |
| 道路の整備効果の早期発現を図るため、暫定2車線整備を先行し、その後、全線4車線完成に向け事業 | | | |

を促進させる。

施設の構造や工法の変更等

コスト削減に資する調達方法の採用や新技術の積極的活用など、コスト削減に努める。

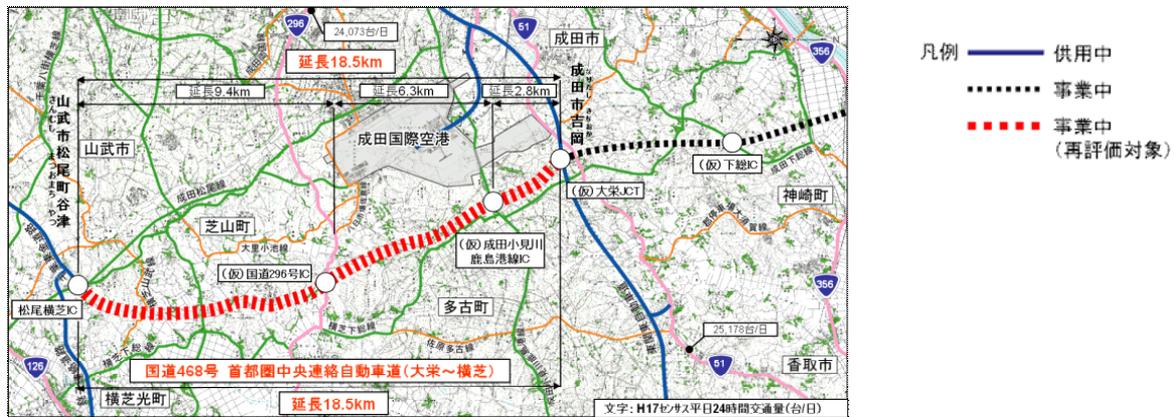
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性・重要性が高く、早期の効果発現を図ることが適切である。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。